

会 議 名 (審議会等名)	平成20年度第1回川西市社会福祉審議会高齢者専門部会		
事 務 局 (担 当 課)	健康福祉部 長寿・介護保険課 内線(2671)		
開催日時	平成20年8月25日(月) 14時00分～16時00分		
開催場所	市役所 202会議室		
出席者	委 員	小田 兼三 牧田満知子 井口 稔 長田 正昭 荻本 文人 井芹 寛 藤末 洋 今西 要 吉川 渉 岸本 廣高 小南 一 森 まり	
	その他		
	事務局	健康福祉部長 益本 健康生活室長 今北 健康生活室参事 乾 長寿・介護保険課 大田課長 堀本主幹 田中主査 福祉政策課長補佐 丸野	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可	傍聴人数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 辞令交付 3 委員紹介 4 部会長及び職務代理者の選任 5 議事 (1) 計画策定の趣旨・経緯について (2) 高齢者保健福祉計画の状況について (3) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画改定のための 意向調査結果報告書について 6 その他 7 閉会		
会議結果	別紙のとおり		

平成20年度第1回川西市社会福祉審議会高齢者専門部会

5 議 事

(1) 計画策定の趣旨・経緯について 事務局から説明(資料5～6)

委 員：資料5・6について解かりやすく、1ページほどにまとめ、後ほど送付いただけますか。

事務局：後ほど、作成しお渡しさせていただきます。

委 員：平成14年度のアンケート調査は、どのように実施されましたか。

事務局：市民の中から、3,000人無作為抽出で調査をさせていただいております。

委 員：回収率は、どのくらいですか。

事務局：前は、42.2%となっております。今回は若干上がるのではないかと考えております

委 員：川西市社会福祉協議会といたしましても、今後の地区福祉活動に反映できるようなアンケート調査内容にさせていただいております。

会 長：川西市社会福祉協議会でも、今後ご協力をしていただけるわけですね。

(2) 高齢者保険福祉計画の状況について 事務局から説明(資料1～3)

委 員：配食サービスについてお伺いしたい。説明のなかで内容を見直すといわれておりますが、具体的に教えていただきたい。

事務局：高齢者のニーズの変容のなかで、現在は、ボランティアの方々にご協力をいただいております。今後は、土・日曜日における配食サービスの実施について検討していきたいと考えております。また、社会福祉協議会における事業としてのあり方についても検討する必要があり、今回ご提案をさせていただいております。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

委員：配食サービス発足当初は、社会福祉協議会のボランティアの方々にお世話になっておりましたが、今日人口16万人都市のなかでこれまでどおりのやり方では、利用者の要望に十分応えていくには無理があり、これからは、見守りと配食サービスを切り離して考えていく必要があるのではと考えます。

会長：今日まで川西市社会福祉協議会の方で、ホームヘルパー養成講座の実施をされてきたなかで、配食サービスの提供にもご協力をいただいていた訳ですが、これからは他の事業者も含めてどのようにしていくかを、皆さんと考えてまいりたいと思います。

委員：いままで、ボランティアの方々に事故等、トラブルの補償についてどのように対応をしてくれましたか。

委員：ボランティア保険に加入しており、今まで大きな事故は特にございませんでした。

会長：他に質問はございませんか。

委員：入浴事業について具体的にお尋ねしたい。気兼ねなく入浴できる社交場として利用している方もあり、将来的にどのようにお考えですか。

事務局：ふれあい入浴は、平成7年度から実施しています。また、現在老人福祉センター2ヶ所でも入浴サービスを続けている訳ですが、利用者が固定化してきている現状において利用のあり方も含め制度そのものについても検討していきたいと思っております。

委員：入浴サービスは、地域のなかでなじみの社交場となるのでできれば今後もふれあいの場として残して行ってほしい。

委員：もともと、中央地区には老人福祉センターがなく、その代わりにふれあい入浴サービスがあると思っていたので、緑台・一の鳥居老人福祉センターのような施設を中央地区にも造っていただきたい。

事務局：高齢化率30%にせまる勢いのなかで、高齢者の社会参加の重要性がいわれており、事業の見直しを迫られております。これからの高齢者福祉のあり方について、次回までに何らかの形で提案させていただきたいと思っております。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

事務局：高齢者が毎年2,500人ずつ増えていくなかで、このままでは、事故が起こる可能性もあり限られた施設で、行政としての役割をどこまで担っていくべきか、もう少し幅広くとらえ総合的に考えていく必要がでてきています。

委員：ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイ事業の利用状況で、特養との関係はどのようになっているのですか。

事務局：ここで言う事業とは、市の独自のサービスでございまして、介護保険外で、認定で自立判定となった高齢者のうち本人の心身の状況等により必要と認められた場合に利用できます。

委員：この事業でのデイサービスセンターは、市内で何ヶ所ぐらいあるのですか。

事務局：川西市社会福祉事業団に委託をしております、老人デイサービス施設は3ヶ所ございます。

委員：私自身、特養の関係で少し関わりがありまして、特養が十分に機能しているのか少々心配しております。

事務局：介護保険の特養につきましては、十分機能していると捉えております。デイサービスも十分機能しており、もしも、要支援、要介護の方々の希望に対応できない場合は他の事業者を紹介しております。

会長：他に何かございませんか。

委員：シルバー人材センターの運営状況についてお尋ねいたします。

事務局：現在、会員数は1,166人で営利目的ではなく、働くことで生きがいを感じて利用いただいております。平均年齢70歳で就業率は75%となっております。仕事の内容に限りがありますが、できるだけ仕事をまわしていただくようにしております。新しい事業として、「広報かわにし」の配布を今年から実施されております。

委員：地域交流スペース事業がなんらかの理由でなくなってしまうのが残念です。

事務局：市といたしましては、補助金の見直しをさせていただいたわけで、地域交流スペースそのものがなくなるわけではございません。なお、清和苑の地域交流スペースにつきましては現在も補助金を交付しています。

委員：市の補助金なくなってしまうのは、なぜでしょうか。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

事務局：他市では交流スペースの補助をおこなっているところは、ほとんどございません。施設での地域交流スペースはこれまでどおり利用していただけます。

委員：老人福祉センターの入浴施設が、市内で2ヶ所しかなく利用者が横ばい状態のなかで施設が増えれば利用者がもっと増えるはずです。おでかけも目的があれば回数も増え、たとえば、入浴もそのひとつで高齢者にとって大きな楽しみの一つにもなります。

会長：老人福祉センターが人気があるならば、もう少し市内各地域に施設を増やす方向でご提案させていただき、検討もお願いしたいと思います。

委員：私は、ふれあい入浴事業とおでかけ促進事業はまったく逆の方向にとらえております。事務局が説明されている内容からいたしますと廃止の方向に向かっていると考えます。事務局としては、どのようにお考えですか。

事務局：高齢者おでかけ促進事業は、70歳以上で介護2までの方が対象となっており、市内で約22,000人おられます。ふれあい入浴は、中央地区に4ヶ所のみで、入浴設備のある老人福祉センターは北部に緑台と一の鳥居老人福祉センターの2ヶ所となっており、利用者も特定の利用者によるリピーターが多く、高齢者全体の福祉の観点からこのまま継続していくというのはいかがなものかと考えております。

委員：実際にどれくらい的人数が、地域ごとに利用されているかお聞きしたい。

会長：川西市の南北問題というところですね。

事務局：緑台はほとんど地域の方で、一の鳥居は市内全域と考えられます。入浴していただくことはたいへん良いことではあります。しかし、ふれあい入浴にしても年間800から900万円もかかるというところで、今一度みなさんと検討をしていただきたいと思います。

会長：かなり議論をし、検討していかなければならない事業だと思います。他にございませんか。

委員：100歳以上高齢者祝福訪問についてですが、100歳を超えると毎年お祝いをしていただけるとお聞きしましたが、ご家族の方のご意見もあり見直しをされてもよいのではないのでしょうか。

委員：貸農園事業についてですが、26区画ということですが、26人だけが利用されているのですか。一人で作るのではなく、みんなで作っていくという方向はいかがなものでしょうか。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

事務局：この事業は、市内に貸農園があまりなかった時代からはじめられていて、年間3,500円とたいへんお安く提供させていただいております。場所も満寿荘のとなりにあり借地でこれ以上増やすことは無理かと思われま

事務局から説明(資料4)

(3) 高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画改定のための意向調査結果報告書について状況について

事務局から説明(資料7)

会 長：こうして、いろいろとご意見を賜っておりますとひとつひとつ事業に意味がある訳ですが、どうぞ皆さんご検討をよろしくお願いいたします。

6 その他

事務局：次回の高齢者専門部会は、11月中旬を予定しております。よろしくお願いいたします。